

小中学校の連携をはかり、
同じ地域に生活する児童・生徒に対する
系統的な教育のあり方を追求する

I 主題設定の理由

同地域の子どもの育成に携わる教職員が、地域との連携の強化を図りながら児童・生徒の実態をより理解し、小中の系統的な教育のあり方を研究していきたいと考え、この主題を設定した。

II 研究内容

1. 第1回ブロック研究会

(1) 日時 平成20年8月13日(水)

(2) 目的 地域の人材や施設を生かした臨地研修を実施し、地域に生きる子ども達の教育に生かしていく。

(3) 内容・コース

ア. 堰堤と大善寺の見学コース

堰堤とその周辺の見学

大善寺の見学と講話

イ. 立正寺とワイナリーの見学コース

立正寺の見学と講話

錦城ワイナリーの見学

ウ. ぶどうの丘周辺見学コース

勝沼ぶどう郷駅周辺の鉄道史跡見学

大日影トンネル遊歩道、ワインカーヴの見学

エ. 歴史とワイナリーの見学コース

釈迦堂遺跡博物館で縄文時代の土偶や土器などについての説明と見学

フジッコワイナリーの見学

2. 第2回ブロック研究会

(1) 日時 平成20年11月5日(水)

(2) 目的 小学校の授業を参観し、情報交換及び懇談を通して、今後の教育活動に生かしていく。

(3) 内容 小学校の授業参観

授業提供 祝小学校 全学年

分科会 「小学校低学年・中学校」「小学校中学年・中学校」

「小学校高学年・中学校」の3つの分科会に分かれて情報交換を行った。

3. 第3回ブロック研究会

(1) 日時 平成21年1月14日(水)

(2) 目的 小中に関わる今日的な問題についての講演会を実施し研修を深める。

(3) 内容 講義「不登校の現状とその対応について」

講師 山梨県総合教育センター 教育相談部 研修主事 一瀬 英史先生

Ⅲ 成果と課題

1. 成果

- ・臨地研修は、新しい発見があり地域を知るよい機会となり、子どもたちへの指導に生かすことができた。勝沼地区に初めて勤務したかたにとっても、文化・遺跡めぐりは地域の様子を知るうえでよかつたし、なかなか個人で行くことができないところへも行くことができた。
- ・祝小学校で授業を提供していただき参観したことで、授業の進め方や教室の掲示物など参考になり、生かせるものは取り入れていきたいと感じた。また、授業後の交流会で、情報交換をし、他校の様子を聞き、同じ地区内でもそれぞれ特色があることが分かり参考になった。
- ・不登校の現状とその対応についての講演会では、今日的課題で、直接子どもに関わる内容で専門的な話を聞くことができ学習を深めることができた。特に、『子どもたちの気持ちを分かろうとすること』『日頃の教育活動で子どもたちにさまざまな体験をさせること』が大切であると改めて感じた。保護者にもぜひ聞いて欲しい内容が多かつた。
- ・ブロック交流研究会は、小中の連携ができるよい機会であり、なにより学区の先生たちが顔を合わせる、知るだけでも十分に成果があると感じる。

2. 課題

- ・新しい体制がスタートして6年が過ぎ、ブロック交流研究会について定着してきているが、マンネリ化しないように工夫していくことが必要である。
- ・講演内容や講師の決定が難しい。
- ・授業参観は時期が毎年同じだと、参観する単元や授業内容が同じになる可能性がある。例えば、1回目を講演会、2回目を臨地研修、3回目を授業参観にしたらどうか。
- ・授業公開する学校にとっては負担が大きいだが、小中の交流をより図れるよう3年に一回ぐらい中学校の様子を見させて頂くとありがたい。
- ・1年の中で、中学校が小学校へ、小学校が中学校へという両方の授業参観があるとよい。
- ・授業参観後の小中の交流会では、あらかじめテーマを決めて具体的に話し合いをした方が今後の実践につながると思う。

(ブロック長 山宮 由紀)